

ひかりのこ

光の子



No.215 2024.11.1

●年間聖句 何事も愛をもって行いなさい。(コリント信徒への手紙16章14節より)



「衣 替 え」

表紙絵・中島 由起子

※今号の俳句は
休載します。

就任のぐ挨拶

光の子どもの家副施設長・事務長 湯澤 有子

今年度より、事務長職に加え副施設長の任を仰せつかり、改めて身の引き締まる想いです。穴水施設長のもと、光の子どもの家で生活する子どもたち、その子どもたちに寄り添い見守り続けている職員のために、微力ではありますが精一杯頑張る所存です。

何よりも光の子どもの家自身を置くものとして、子どもたちが安心して充実した生活が送れることを第一に考え、子どもたちの支えになり寄り添っていききたいと思えます。「子どもたちには、だれでも生きる権利があり、さらにより高い理想が与えられそれに向かって成長する道が与えられるべきである」

私たち大人たちができることは、子どもたちがより高い理想に向かって成長していくための支えになることであり、さらに子どもたちに公平にその機会を作ってあげなければなりません、今この瞬間

が、子どもたちにとって大事な人間形成の時であり、将来社会生活を送るうえで大きな意味を持つてくるのだと思います。

だからこそ、子どもたちみんなが公平に光の子どもの家で安心して生活をしてもらいたいと願っております。

近年「働き方改革」という言葉が注目される中、光の子どもの家における労働環境等の改革にはなかなか難しいところがあります。

まずは職員のワークライフバランスに合わせた勤務時間の調整の検討、職員の休憩時間の確保に伴うフォロワー体制の見直しに取り組み始めました。

小規模化かつ地域分散化をよりいっそう進めた施設への転換、働き手の職員不足・求人活動の見直し・開拓、築40年となる本園の老朽化の改築・改装をどのようにしていくか、課題が山積の光の子ども

の家ですが、夢のある計画を立てることや、その実現に向けて、これからも子どもの権利擁護がおぎなりにならないように、子どもたちの最善の利益を常に考え職員一団となり「チーム光の子どもの家」は職種を超えて力を合わせていきます。

光の子どもの家を創立以来お支えいただいている、後援会の皆様・地域の皆様・ボランティアの皆様・職員の家族の皆様など多くの方々に感謝申し上げますとともに、今後ともお力添えをいただければ幸いです。

2024年夏は、各地で連日の高気温と雷雨の多発という異常気象が続く中、子どもたちは大きな病気や怪我もなく夏休みを終え、新学期を迎えることが出来ました。

8月末には2名の子どものを迎え、また新しい36名での生活が始まりました。

この間の地震・豪雨で被害にあわれた方々に、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念いたします。



本園入口の看板を新調。建物を設計した増田氏の製作です。

環境整備委員会で、原田家の傘立てと、園内保育用の遊具収納棚を製作しました。



86歳の誕生日を迎えた今日

老健施設紅寿の里 施設長 仙道 富士郎

86歳の誕生日を迎え、感慨深いものがあります。人生の大半を過ごしてきた今、老化と向き合う日々は避けられない現実です。身体的な衰え、視力や聴力の低下、記憶力の衰退など、これまで当たり前だったことができなくなることへの悩みは少なくありません。また、体力の低下によって自立した生活が難しくなる不安も抱えています。しかし、このような老化の悩みは避けられない人生の一部であり、受け入れるべき現実だと理解しています。

一方、我が国の将来についても、深く考えさせられる日々です。経済の沈下や少子高齢化、社会全体の停滞感、私たちが高齢者にとっても無視できない問題です。かつての日本は経済的にも技術的にも世界をリードしていましたが、今ではその勢いが失われつつあります。復活のための回復策として、私は教育の重要性を強く感じています。次世代を担う子どもたちに、しっかりとした価値観と知識を伝えることが、日本の未来に光を与える鍵だと思えます。また、技術革新や環境への配慮、地域社会の再構築など、具体的な行動が必要で、一人ひとりができる範囲で協力し合い、地域から日本全体を支える意識を持つことが重要ではないでしょうか。

残り少ない人生をどのように生きるかも、今の私にとって大きなテーマです。若い頃は未来に向けて目標を設定し、挑戦を続けることが人生の中心でした。しかし今では、残された時間をどのように有意義に過ごすかが焦点となります。私は、これまでの人生で得た経験や知識を、周りの人々と分かち合うことに重きを置いています。特に、若い世代やこれから社会を支える人々に、自分が学んできたことを伝え、少しでも役に立ててもらえるよう努めたいと考えています。また、家族や友人、地域社会とのつながりを大切にし、感謝の気持ちを持ちながら、一日一日を大切に生きることが私の目標で、歳を重ねることは決して悲観的なものではなく、新たな視点や価値観を得る機会でもあります。私自身、まだまだ学ぶことが多く、これからも成長していきたいという気持ちで忘れずに、最後まで自分らしく生きていくつもりです。



原田家ダイニングの壁修繕

さて、以上の文章は私が書いたものではないことを、ここで白状しなければなるまい。実は、この文章は、「児童養護施設広報誌「光の子」原稿 タイトル…86歳の誕生日を迎えた今日 内容…1）老化の悩み…2）沈下している我が国の回復策…3）残った人生の生き方、以上について10000字でまとめ」というプロンプト（指示）に基づいて、ChatGPTに書いてもらった内容に、ほんのわずかなばかりの訂正を加えたものである。驚いたことに、小生の意図したことを過不足なく纏めている。コンピュータの世界はここまで来たのかと思わされる。

しかし、一方、現時点で、ChatGPTは、「光の子」に掲載された穴水祐介光の子どもが家新施設長の就任挨拶文を書けるようにはどうしても思えない。どういうことか考えてみると、ChatGPTの辞書には、まだ穴水施設長の新構想は記憶されていないから、書く術を持たないのである。いまこの文章をしたためていて、このポイントがとても重要であることに気づかされた。つまり、インターネットの膨大な過去の情報にはまだ書き込まれていない、全く新しい

おしゃく



試みが、今穴水新施設長を中心に光の子どもの家で展開されようとしていることにこそ私達は注目しなければならぬのだ。私は何も、穴水さんを持ち上げようと意図しているのではなく、意義のある人間の行為は、すべからず、過去を乗り越えようとする勇気を起点とする想いから始まるもので、それが、人間を人間たらしめていると言いたいのである。

インターネットどっぶりの私であるが、これを利用して、他国の人心操作を試みている国があり、それが一定程度成功しているという最近の報道に接し、悲しさだけが残った。

独居老人として

彫刻家 中島 睦雄

独居老人の私にとって、この地域で生きていくには車は絶対に必要である。

まず、毎日、毎食は欠かせない。料理は殆どしないので、できあがった物や簡単に出来るもの等を買っていくか、外食か、になる。

昼なんかは特に外食が多いが、物価高騰のこともあり、値段の高いものは毎日というわけにはいかない。普通はなるべく安く済ませている。かといって安物だけでは体も気持ちもたない。時には「うな重」だとか、体に良さそうなものも食べるよう

にしている。

食へに行く店も大方限定さから、店の方ともすつかり知り合いになつていて、言わなくとも私の好きな席へ案内してもらっている。

そんな店で、私と同じように毎日食へに来る老人がいる。この老人ともすつかり知り合いになつて

「やあ!! どうも!!」と挨拶を交わすようになつた。

この方は乗ってくる車が2種類あつて、1台は白いスマートな車、もう1台は軽トラックである。

いずれにしても、私より恵



中島氏「空に向かって」(1983年作)が近くの図書館に設置されました。

まれた環境にいるように思えた。

私の場合を考えた……時々知り合いから声をかけられることがある。

古くからの友人に「メシを食いに行くべよ!」とか、交流のある美女2人からのお誘いだつたり。

その美女方と食事に行くとき、いつもの店では「おつ、今日は美女とお食事ですね!」とひやかされてしまうので利根川を越えて、少しドライブして、離れた店で食事をしたりもする。

88歳、腰の曲がりかけた独居老人でも、そのような出来事があつたり、私の相手をして下さる友人、美女方、店の方に感謝である。私も恵まれた環境にいるようである。

「合宿所？」

池田 祐子

「倉澤家」を長く担当していた倉澤が昨年度末で定年退職となりました。4月からは倉澤家改め「はたい」としてスタート。

最年長の茉優、高3の莉玖はこれまでと変わらず、他は本園から引越してきた高3の輝夜、高1の日向、中3の凜の5人。そして私、池田が担当となりました。

本園から引越してきた子たちは「引越したくなかった」という気持ちを少なからず抱えていました。

お互い様子を見ながら、表面的には明るく話をして過ごしていました。皆、自分のことで精一杯、というか自分のことを持て余してしまい、ささくれているような……

ある時、中3の凜が「ここの合宿所みたいだね」と言い、他の子たちも同意。

光の子どもの家は、子どもが安心できる、帰ってきたくなる「家」でありたいと願っ

ていたのでは？ 帰る家があるから「合宿所」に居られるのではないのかな？ 「はたい」は子どもたちにとっていい……。

考え続けていきたいです。



これから花火が上がります。

仙道家から 「ガンダム、ポケモンと 共に立つ！」

橋本 寛司

夏休みも半ばを過ぎたある日、友則が「ポケモンセンターに行きたい！」と言っていたことを思い出した。しかしわざわざ東京まで行

くのには、ポケモンセンターだけというのも味気ない。友則はガンダムも好きなので（：私の趣味でもある）お台場のガンダムベースにも赴くこととした。

友則は電車の中で静かにしていられるだろうか？と心配されていたが、静かに立っていることができた。池袋駅に着くと、上機嫌でポケモンセンターへと向かった。

夏休みの大混雑、普段の友則であれば固まってしまふところだと思いが、怖気づくことなく人混みの中をグイグイ行くのを目の当たりにして、ああ好きなもの前になると人って変わるものだなと感じた。

お互いひと通り買い物を済ませるとお腹が空いたので昼食を摂ろうと最寄りのマクドナルドに寄ったがこちらでも激混み、ここではレジの前に立つと固まってしまった。

（さつきまでの威勢はどうした……）と少し焦ったものの無事昼食を済ませた。

ガンダムベースに着くと等身大ユニコーンガンダムがお出迎え、そこで記念写真をと

思ったその時、友則から「ポケモンのぬいぐるみと一緒に撮る！」と提案があったのでぬいぐるみを手を持ち写真の構図は正に夢の共演といった良ものになった。

その後買い物をするも、ガンダム生誕45周年のこともあり記念展示物や商品等が所狭しと飾られていてこちらも大混雑。自分が怯まずグイグイと進み、展示物や商品購入をしていると友則がぼそりと「はっしー、夢中になりすぎだよお」と言ってきたので思わず「すいません……」（自分、大人げない……）

買い物済ませ、帰路についたところで友則から「楽しかった。また行きたいね」と言われ、自分も弾丸ツアーではあったがまた都合が合えば行きたいと思えるような良い旅となった。

「ガンダム、大地に立つ！」
これは機動戦士ガンダム第1話のサブタイトルである。いつか友則が自分の力だけでガンダムのある地に立てるよう成長を見守って行きたいと思う。

園内保育から
「夏休みの遊び」

折原 千絵

夏休み中は、園庭にプールとシャワーが設置されました。みんな水遊びが大好きで、夏休み前から楽しみにしていました。しかし夏休み後半は、プールの近くにスズメバチの巣ができてしまい、駆除するまで2週間程はプールが使えず、ほぼ毎日熱中症警戒アラートが発令されるので、その間は食堂での室内遊びが主でした。

今年人気だった遊びは、ベイブレードとプラレールです。ベイブレードは色々な効果があるパーツを自分で選んで組み立てて戦わせる独楽(コマ)です。対象は小学生以上なので、幼児はレゴブロックで独楽を作って遊んでいました。プラレールは小1の博が得意で、立体交差のある大きな線路を作ります。いつも時間切れか材料切れになつてしまうので、いつか時間も線路の材料もたっぷりある環境で本気の大作を作ってみて

もらいたいものです。

また、大きなブロックも人気です。バスやバイクを作つて乗つて遊んだり、家やお店を作つてごっこ遊びをしたりと、使い方がいろいろ。自分で好きなように作つて展開できるのが楽しいようです。子どもたちの想像・創造力は無限大ですね。

最近ようやくやわらかい涼しい風を感じるようになってきて、外遊びも解禁になりました。外ではどんな遊びが展開されていくのか、楽しみです。

佐藤家から

「赤城山」

酒本 平

長い夏休みも終わりましたが、外では子どもたちの楽しく遊ぶ声がより一層大きく響いております。

今年の夏は、佐藤家の子どもたちと赤城山にあるキャンプ場に行つて川遊びやBBQをしました。

普段行くことのできない自然の中で達也と彬は大はしゃぎでクワガタを沢山捕まえることもできました。

そんな楽しい夏休み終わりで、急な家メンバーの移動があり、佐藤家は男児だけの家になりました。

仙道家から来た玄師は、なかなか理解ができず「今日は佐藤家でご飯食べるのおく？寝るのは仙道家えく？」

元々佐藤家にいた英樹は、隣の家から急にやってきた玄師とそりが合わずぶつかり合つたり、他にも学校のクラスでも一緒の組み合わせができたり、これで上手くいくのだろうか？主になる職員も男性で……。

不安要素は沢山あります。が、皆で助け合う、補い合うことを大切にして暮らして行ける家になれるようにと願います。

そんな状況やタイミングで新しい子どもたち、新しい職員も増え、そしてここから旅立つ子もいました。入れ替わり立ち替わりなかなか落ち着かない日々ですが、少しでも子どもたちの支えとなり光の子どもらしく歩めますように。お心をつかってくださる方々の祈りを覚えて子どもたちと共に成長できたらなと思

います。



靴箱大掃除！

原田家から

「ちびっ子ギャング」

染谷 涼花

8月9月が終わつても暫くは暑い時が続きましたが、この所やっと涼しくなり始めました。

6月に入所した寛太の幼稚園入園手続きも無事に終え、夏休み明けに通うようになりました。

通う前までは、「他の幼児同様に登園バスに乗って幼稚園に行く」ということを楽しみにしていました。通い始めた途端、泣き叫びながら幼

幼稚園を拒否。よほど寛太なりの理想があったのだろうと察します。

今では慣れてきたようで、「泣かなかったです」「給食も全部食べました」と先生から報告があるくらいで、寛太なりに頑張ってるようです。

夏休み中、子どもたちはあまり体調を崩すことなく、むしろ元気に遊んで過ごすことが出来ました。

園庭のプール、水遊び、様々な行事、外出等を楽しむことが出来て子どもたちにとって良い夏休みになったと思います。

寛太もここでの生活に慣れ、振る舞う様はまるで数年前からここに居るんじゃないかと思うくらいです。

10月、幼稚園の運動会を控え、今ここに居る幼児7人はそれぞれ練習を頑張っているようです。

私が担当している幼児4人ちびっ子ギャングたちは、幼稚園から帰ってくると今日やった練習の事を話してくれました。幼稚園から持って帰ってきた団扇を見せて「僕、緑チームになったんだよ」「えっ

とね、僕は青のうちわ」その団扇を笑顔で仰ぎながら「僕のうちわ」と嬉しそうです。

秋めいて過ごしやすくなったり変化が激しく暑くなったりする日もあります。皆さま体調にお気を付けてお過ごし下さい。

これからも子どもたちの成長を見守り、手助けしていきたいと思えます。



夏休み、鉄道博物館に行った博（小1）。ED75形電気機関車を見て「これに会いたかったんだよ」。

寄付金受領感謝報告

2023年度に受領いたしました「光の子どもの家を支える会」への寄付金は

1169万7356円

でした。

今までは、ご寄付くださった方々、団体等のお名前を掲載させていただきましたが、今後はこのような形で感謝のご報告を掲載させていただきますこととなりました。

皆さまからの篤いご支援と励まし、そしてお祈りに、心より感謝申し上げます。

光の子どもの家を支える会

代表 永野 三恵

光の子どもの家自立進学基金

代表 藤岡 孝志

社会福祉法人光の子どもの家

理事長 大高晋一郎

【休載のお知らせ】

近藤みちる「共育ちカンガルー日記」は休載です。



渡良瀬遊水地まつりで熱気球係留体験

訃報

機関誌「光の子」に俳句を提供くださっていたました奥名春江様が天に召されました。

今までのおはたらきに心より感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

日誌抄

2024年6月
2024年9月

【10月1日の在籍児童数】

未就園1名 幼稚園7名
小学生12名 中学生8名
高校生6名 大学生1名
計 35名

【6月】

8日 法人理事会
10日 寛太入所
27日 眞波入所

【7月】

6日 後援会によるうどん会
8日 平本議理事による職員研修
19日 夏休みオープニングパーティー、パントリー
30日 ご招待を受け多数の子どもがむさしの村へ

【8月】

2～4日 佐藤家、三井グループと大鹿グループに分かれ、それぞれ赤城バイブルキャンプ、大鹿宅で宿泊
5～8日 東仙道家、秋田で宿泊
6～7日 仙道家、男児グループが茂木で宿泊、女児グループは埼玉県こども動物自然公園、アリオ鷲宮に

外出

17日 ご招待を受け幼児が「おかあさんといっしょ」コンサートへ
18日 化学実験教室
22日 美蘭入所
22～23日 原田家女児夏期行事で鴨川へ

23日 あかり入所
26日 夏休みさよならパーティー 青山キリスト教学生会の大学生数名来訪
28日 寛太、幼稚園登園開始
30日 卒園生で職人となった均、ボランティアとして事務棟の内壁を塗装
【9月】
2日 エントランスの看板を新調
10日 茉優、他県のグループホームへ
28日 吉尚と職員が招待を受け、卒園生真由子の結婚式に参列
30日 第三者評価訪問調査

【礼拝ご奉仕各位】 東大宮教会 木田浩靖教師 佐々木優牧師
【委員会の主な動き】
危機管理 夜間避難訓練実施
環境整備 プール設置、除草、食堂大型傘立て&遊具

収納棚制作

食生活 リスクマネジメント
研修受講

建築 増田設計士と共に補修改修実施

【実習受入】 十文字学園女子大学1名 東京家政大学2名

【元職員の来訪】 岩瀬志穂 牧野由紀子 田口貴子

【寄贈者各位】 相崎伸子 和泉みどり 大橋清榮 檀渕歌世 金久保公男 小池みどり 木暮伸二 鈴木史乃 高橋智史 竹林勝子 豊島聡子 丹羽吉康 根本勝美 長谷川一夫 濱田はるみ 浜田文昭 原田絵里・幸映 樋口まち

子 平本讓 古川景子 増田学 松村 門司一徹 山口榮子 横田千代子 山田智・裕子 渡辺具是 青山学院AC F 市流 鴨川会 すくすく広場 高橋会計事務所 (株)なとり 藤沼畜産 (株)フレール館 他多数の皆様

【ボランティア各位】 (華道) 岡本有代 (施設補修・学習) 栗橋営繕 (手芸) 山田智・裕子 (学習) 常松洋介 関口晃司 (保育) 小松 坂本美紗子 聖学院大学グレース 中平順子 他多数の皆様

【元職員の来訪】 岩瀬志穂 牧野由紀子 田口貴子
【寄贈者各位】 相崎伸子 和泉みどり 大橋清榮 檀渕歌世 金久保公男 小池みどり 木暮伸二 鈴木史乃 高橋智史 竹林勝子 豊島聡子 丹羽吉康 根本勝美 長谷川一夫 濱田はるみ 浜田文昭 原田絵里・幸映 樋口まち

ご寄付について (物品の寄贈は事前にお問い合わせください)

【郵便振替】 00130-1-128022

他銀行から【銀行名】 ゆうちょ銀行 【金融機関コード】 9900 【店名】 019店
【店番】 019 【預金種目】 当座 【口座番号】 0128022

【発行】 社会福祉法人 光の子どもの家 【住所】 〒349-1155 埼玉県加須市砂原277-3
【電話】 0480-72-3883 【FAX】 0480-72-6649 【メール】 hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp
【Webサイト】 http://www.hikarinokodomonoie.com/ 【印刷】 (株)エル・アートデザイン